

Learning to write in the second language k-5 ●萌

著者紹介

Maria estela brisk

EDUCATION (履歴)

Ph.D., University of New Mexico (ニューメキシコ大学博士卒業)

M.S., Georgetown University (...大学教授)

Profesora de Ingles, Universidad Nacional de Cordoba (Argentina)

EXPERTISE/INTERESTS (専門・趣味)

Bilingualism, bilingual education (二言語教育), literacy development, methods of teaching literacy (文学の教授方法).

Writing development and instruction.

HONORS/PUBLICATIONS/PROFESSIONAL ACTIVITIES (部分著作)

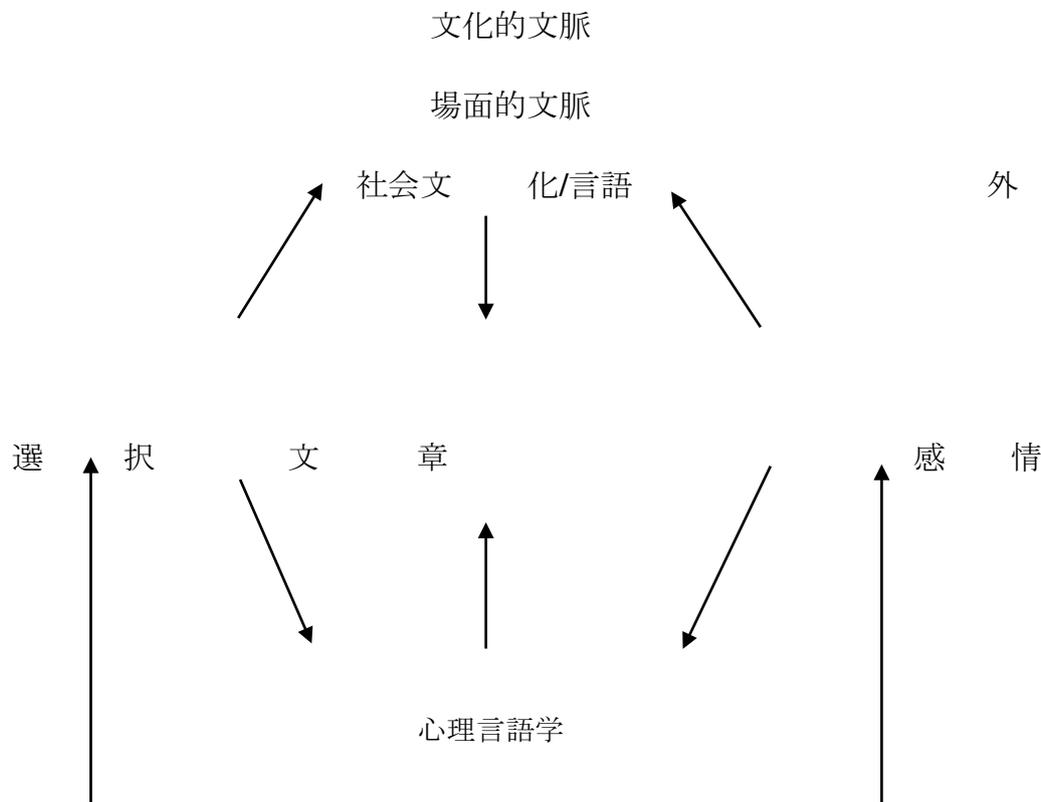
Books

Brisk, M. E. (2015). Engaging Students in Academic Literacies: Genre-based Pedagogy for K-5 Classrooms. New York: Routledge.

Brisk, M.E., Ed. (2008). Language, culture, and community in teacher education. Mahwah, N.J.: Lawrence Erlbaum Associate (for the American Association of College for Teacher Education).

Brisk, M.E. & Harrington, M. M. (2007). Literacy and bilingualism: A handbook for all teachers. Second Edition Mahwah, N.J.: Lawrence Erlbaum Associates.

1. はじめに



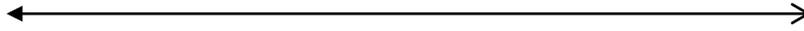


図 1

*心理言語学：人間が言語を獲得する過程について研究したり、言語の認知処理、言語の生成過程や方言の出現など、言語学の中でも特に人間の心理的過程と結びつけて研究する言語学と心理学の中間の学問。

結論：要するに、SFL 理論と walter モデルから二言語学習者に作文する時の理解と要求を提供する。

2. 言語選択

- 言語の運用能力は普通の母語話者より二言語学習者の方が上手。
- 二言語学習者の言語選択は目的と相手次第。
- 二言語学習者は文章を書く時自分が自信を持つ言語を優先する傾向がある。
- 文章を二つの言語を書いて、一つはもう一つの概要の訳すもの。
- 第二言語の言語学インフォメーションを足りないと、第一言語のデータを使って分析を行う。

例えば、中国人学習者は日本語を勉強する時、意味と発音を知らない漢字を見て常に中国語で理解する。

真面目（まじめ）：真 剣な態度；本気



真面目（zhen mian mu）：真正的样貌（本来の様子）

また、聞いたことがない日本の名作（場所、人物など）を理解やすい為に、中国のものを連想して考える。

例えば、「源氏物語」は日本の「紅樓夢」みだいの存在だ。

- 二言語学習者の文法とスペリングは地元の人と敵わない最大の原因は第一言語の影響。

- この影響は現在の言語環境と関係がある。

3. 感情

- 言語の使用頻度、文体とテーマ三つの方面で感情の影響を受ける。

4. 文化背景文脈

- 書くことを学ぶとともに新しい文化背景のしたでどのように活動することも学ぶ必要。
- 文化間の差異は文体の使用者、文章の構成と言語の特色三つをところから見える。
- 表現手法は文化によって違う。
- 文化は文章主題に影響を与える。（文化と文化の微妙なニュアンスは書きにくい）
- 多重の角度から文化を理解する。（変わらないイメージと認識を避ける）

例えば：すべてのドイツ人は几帳面な性格。✕

フランスの男はロマンチック。✕

5. 場面的文脈（現在形勢）

- 言語選択における学校と家庭両方とも政治的な影響を答えなければならなり。
- 書く能力はどちらの言語でも通用だ。
- 幾つかの言語を身につけると言語への理解が深くなって、開発もやりやすい。

6. 言語変種

意味：言語変化

field（分野）：話す内容

tenor（主語）：人の交流と人間関係

mode（モード）：書くあるいは話す

それぞれの意味を解釈する。

7. 分野

- 文章を書く時知識、選択と言語要求の重要性を強調する。
- 二言語学習者にとって、新しい課題を学習する為を書くことは大切な手段。
- 主題選択は言語の要求を提示する。
- 文法が身につけないと、口頭だけ複雑な文章を話せる。書くのは難しい。
- 文章は参加者（名詞で紹介する、形容詞で述べる）と過程（動詞で表現する）二つ含める。

8. 要旨

- 子供は小さい頃から社会化の為に聞き手によってどのように言語を使うのかを学ぶ。また、適当な言葉を選んで話すという能力も育てている。
- 人間関係における読者、言語使用者両方とも中心に。

9. モード

- 文章書く時一貫性を強調する。

10. 手段

- 特定の文体を使って書くことは子供の読む能力も促進する。

11. ジャンル（文体・様式）

定義：...patterns of text structures

目的によって分ける：tell stories;give instructions;organize information;persuade

作用：①書く能力を育成為にチェンジを与える；②文章理解しやすい為；③総体レベルを高める為。

ほか：子供たちはいろんな文体を使って書くのはほしい；

文体自体はいろんな言語要求がある；

参加者は文体を区分するという傾向がある；（人称が変わる）

名詞を述べる為に違った種類の形容詞が必要。

結論：上記の手段を通して二言語学習者に文体運用能力（文体を自由に選んで書く能力）を育成する。

12. 結論

- この章は学校の中で二言語学習者は第二言語で上手く書く為に幾つかの要素をコントロール必要があることを説明する。SFL理論の用途（言語学内外の要求を明確する）と重要性（①二言語学習者の理論支持として；②先生に教え方をくれる）も紹介する。
- walterモデルの価値も認定される。
- 学生自分次第言語の使い方を与える。
- 第二言語を研究する時第一言語も保つ可能だ。